

## 「自分を大切に・人を大切に・ものを大切に・自然を大切に」 を合言葉に、エコ委員会が主導して みんなで取り組むエコ・スクール活動

エコスクール活動に取り組んで 15 年目。学校ビオトープの活用しながら、児童会のエコ委員会のメンバーを中心として児童がアイデアを出し合っている活動に、家庭・地域と連携した学習活動を重ね、共に学べる環境学習を展開した。

### 1 学校の概要

油日小学校は、滋賀県の南東部の鈴鹿山脈の麓にあり、油日岳を源流とする杣川が学校近くを流れている。2000 年の 3 月に完成した学校ビオトープも、今では木々が大きく育ち、カエル、メダカ、ドジョウ、ドンコ、タニシ、カワニナなど多くの生物が観察できる場になった。また、校庭にも数十種の木々が育ちよい活動場所となっている。

### 2 活動の実際

#### (1) エコ委員会の取り組み

##### ア. ゴミゼロ作戦

子どもたちのゴミをなくしたいという思いを具現化する活動が「ごみゼロ作戦」である。毎年 5 月 30 日の「ごみゼロの日」にエコ委員会からの呼びかけで活動を計画してきた。事前の説明は、エコ委員会のメンバーが集団下校時の集会で行った。当日は教室のゴミ箱に封をし、広告で作った紙袋を各自の机に下げて、その日の自分のゴミの全てを入れた。一日の終わりの学級活動で、どんなゴミがあったか、減らせるゴミはないかなどを話し合い、そのまとめを校内に掲示した。子どもたちが、無駄なゴミについて再認識する機会になった。

##### イ. 油日小ゆるキャラ「エコンジャー」の啓発劇



「ゴミゼロの日」の説明に加えて、環境運動の啓発を盛り込んだ創作劇「ビオトープにエコンジャー参上！」を披露し、ビオトープで活動する際の心遣いや、委員会が行っている保全活動の意味について全校児童に呼びかけた。

##### ウ. 「エコ新聞」と「ミニ水族館」

「エコ新聞」は、エコ委員会によるビオトープ便りである。児童昇降口のコーナーに掲示し、内容も、子ども自身が興味のあるものとして、生き物紹介や開花情報、さらに果実の食べ頃情報などを、写真やクイズを交えて紹介した。

「ミニ水族館」では、ビオトープや地域の川に生息する魚を紹介している。1階の廊下に水槽を並べて生き物を飼育展示しているが、魚に詳しい委員会のメンバーが自主的に地域に生息する川の生き物を加えながら世話をした。水槽の下には、説明書を作って貼り、個体の紹介もした。また、マグネット版の校区地図の上に生息する魚の種を貼って分布図にし、魚を中心とする地域の自然の状態を紹介した。

##### エ. ザリガニの駆除作業

エコ委員会では、ビオトープの池に地域固有の水草であるガガブタを取り戻そうと水草の生育しやすい環境づくりを探ってきた。大量に発生しているザリガニが水草を食べてしまうことがわかり本格駆除に乗り出して 3 年、成果はでてきた。毎朝もんどりをしかけてザリガニを捕まえるが、そのわなの中にはザリガニ以外のさまざまな生き物も捕獲され、子どもたちにとっては毎日楽しみながらの活動となった。

##### オ. 秋の自然と遊ぼう会

10 月下旬の昼休みに、エコ委員会が中心となり

ワークショップ形式で行う活動である。「葉っぱマンをさがせ！」では、木や草むらに隠れる「葉っぱマン」を見つけて、ネイチャークイズに答えながら楽しんだ。また「どんぐりごま作り」「オナモミの的当て」「ザリガニつり」など子どもたちのアイデアにより、楽しいゲームを展開した。



## (2) 環境フェスティバル 10月18日(土)

この行事は、学校で取り組んでいる環境教育を、家庭や地域に広く紹介するために、全校をあげて行っている重要な活動である。

内容は学年ごとに、次の活動を行った。

- ・ 1年 アサガオのつるのリースづくり
- ・ 2年 ひつつきむしの絵、虫クイズラリー
- ・ 3年 池の生き物観察と飯盒炊さん(防災)
- ・ 4年 丸太切り体験 丸太でクラフト
- ・ 5年 水中の微生物観察、ヨシ笛づくり
- ・ 6年 油日岳登山

地元森林組合や水口こども森の学芸員など地域の方々からの幅広い協力が得られたことで専門的な指導も受けることができた。

## (3) エコ・スクール支援委員会の取り組み

環境フェスティバルを支えるもう一つの重要な組織が「エコ・スクール支援委員会」である。この組織はPTAの中の専門機関として位置づけられている。保護者でもある委員には、計画から運営まで自分の興味関心を活かしながら関わっていただいた。

実施後の保護者アンケートでは、保護者自身参加してよかった、もっと一緒に体験したいという声が多く、この環境学習が親子で話題を共有できる機会になっていると感じる。中でも「ひつつきむしの絵」と「飯盒炊さん」のショップでは、支援委員自身がフリップを作成、活用してプレゼンを行った。実施後の総括会議では、委員から活動をよりよいものにしたいという展望が熱く語られ、環境教育の広がりとしてひとつのモデルになってきていると感じた。



## (4) ハナノキ学習やグリーンカーテン

生活科や総合的な時間「ハナノキ学習」でも3年の薬草博士など、ビオトープを中心として学習を展開している。また、夏場の節電対策として校舎南側にグリーンカーテンも栽培した。

## (5) ビオトープに薬草園を造成

「くすりのまち甲賀町」のビオトープに地域種の薬草園があればいいなという発想から、地元企業シオノギ薬草園の指導と協力を得て実現した。今年は、アオバナとアイとムラサキとイブキジャコウソウの4種の栽培に取り組んだ。専門家の指導もあり、土質も合って見事な薬草に生育した。



まずは、薬草学習と水の世話をがんばった3年生がアイ染めに挑戦。朝摘みした生葉を使い、薬科大学の先生の指導のもと、色の変化に感動しながらたたき染めと青汁染めに楽しく取り組んだ。

また3学期には、苗の植え付けをした6年生が、卒業記念制作の一つとしてムラサキ染めをした。

たくさんに増えたイブキジャコウソウは、地域にも栽培の輪を広げることを狙い、環境フェスティバルの際に、お土産として持ち帰ってもらった。

学校名	甲賀市立油日小学校
住所	甲賀市甲賀町上野1322
電話番号	0748-88-2079
E-mail	koka30102032@city.koka.lg.jp